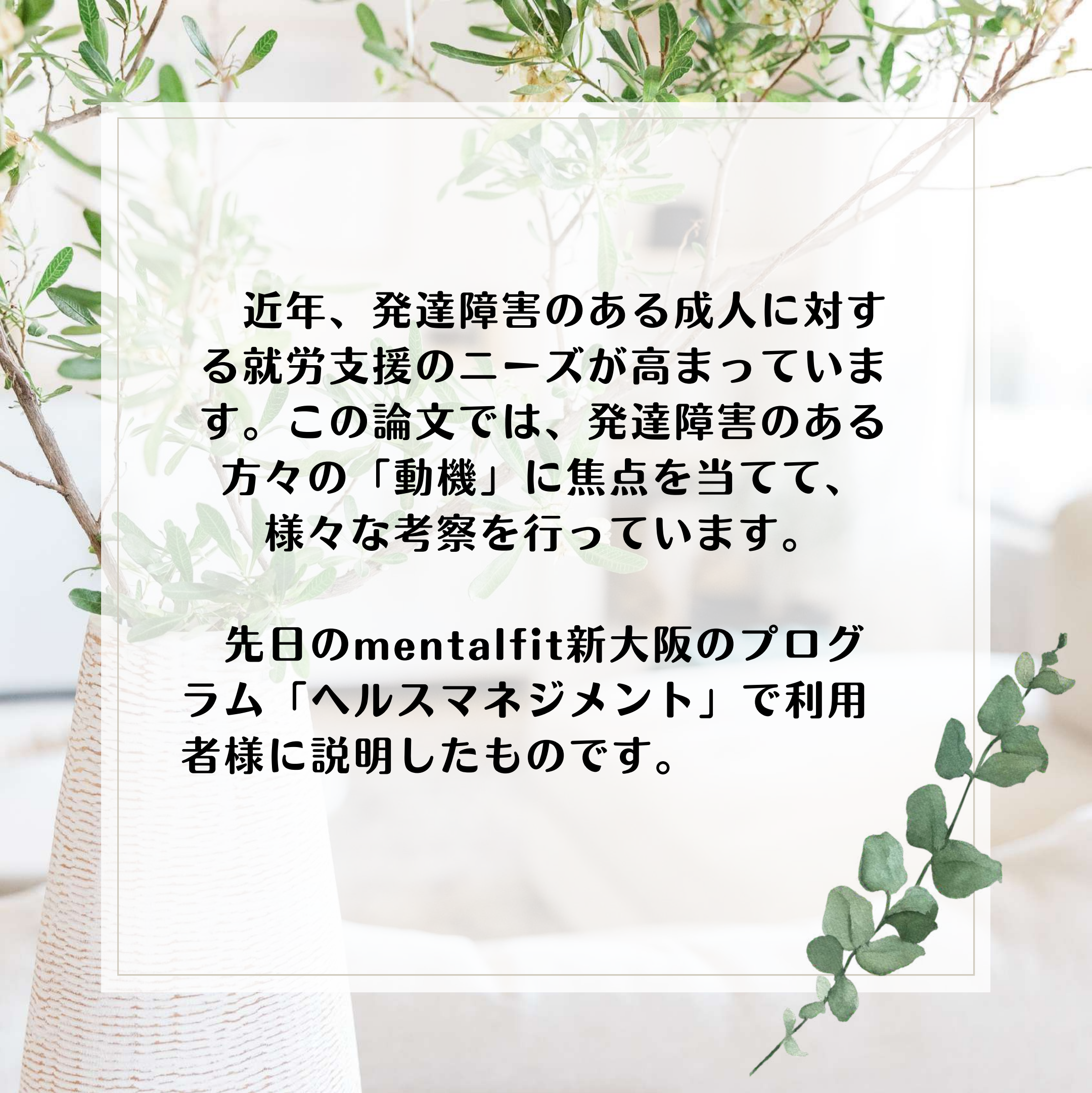


論文を読む！

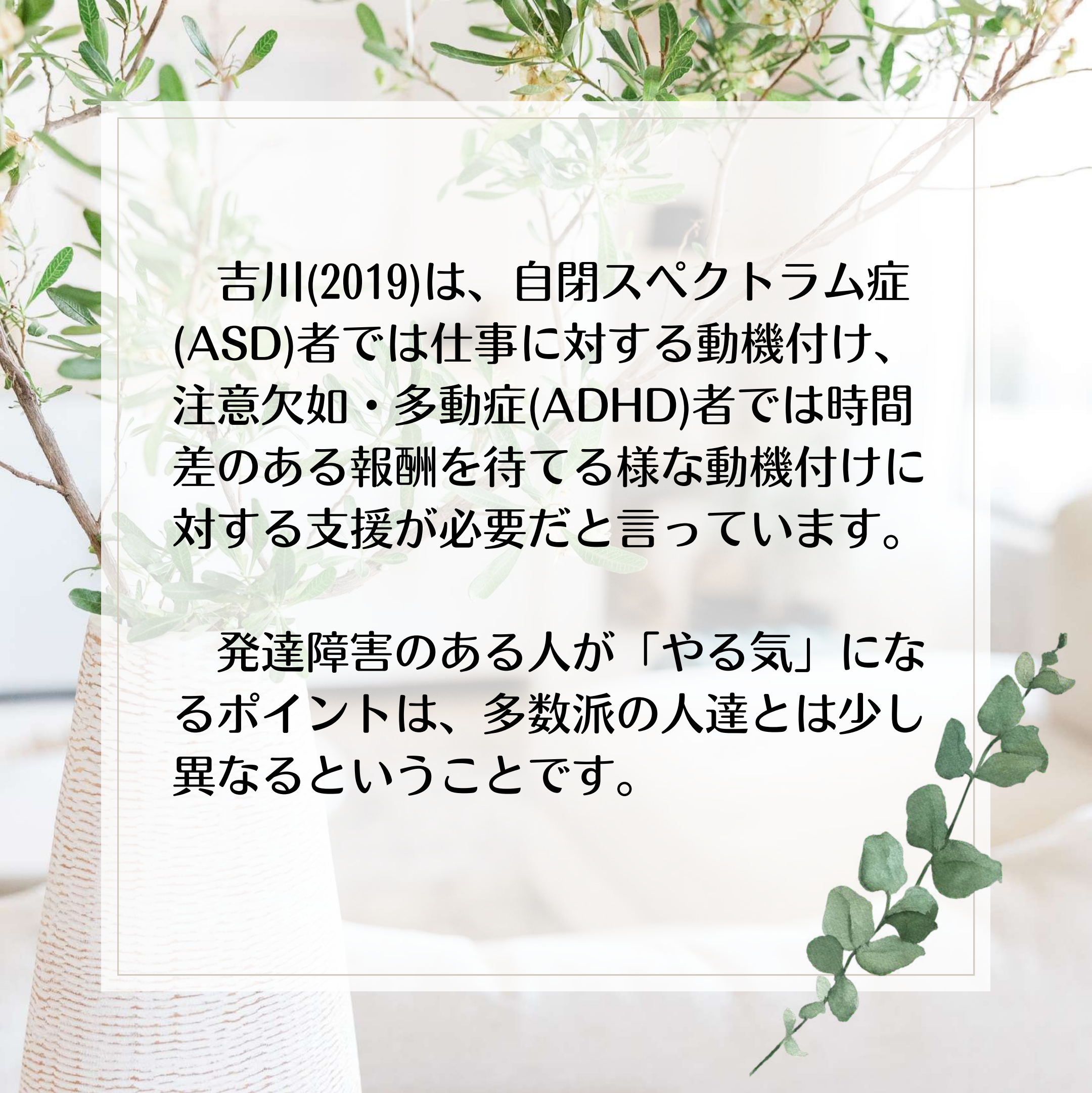
大人の発達障害の就労支援

出典：吉川徹（2019）大人の発達障害の就労支援，精神医学，59巻，5号.



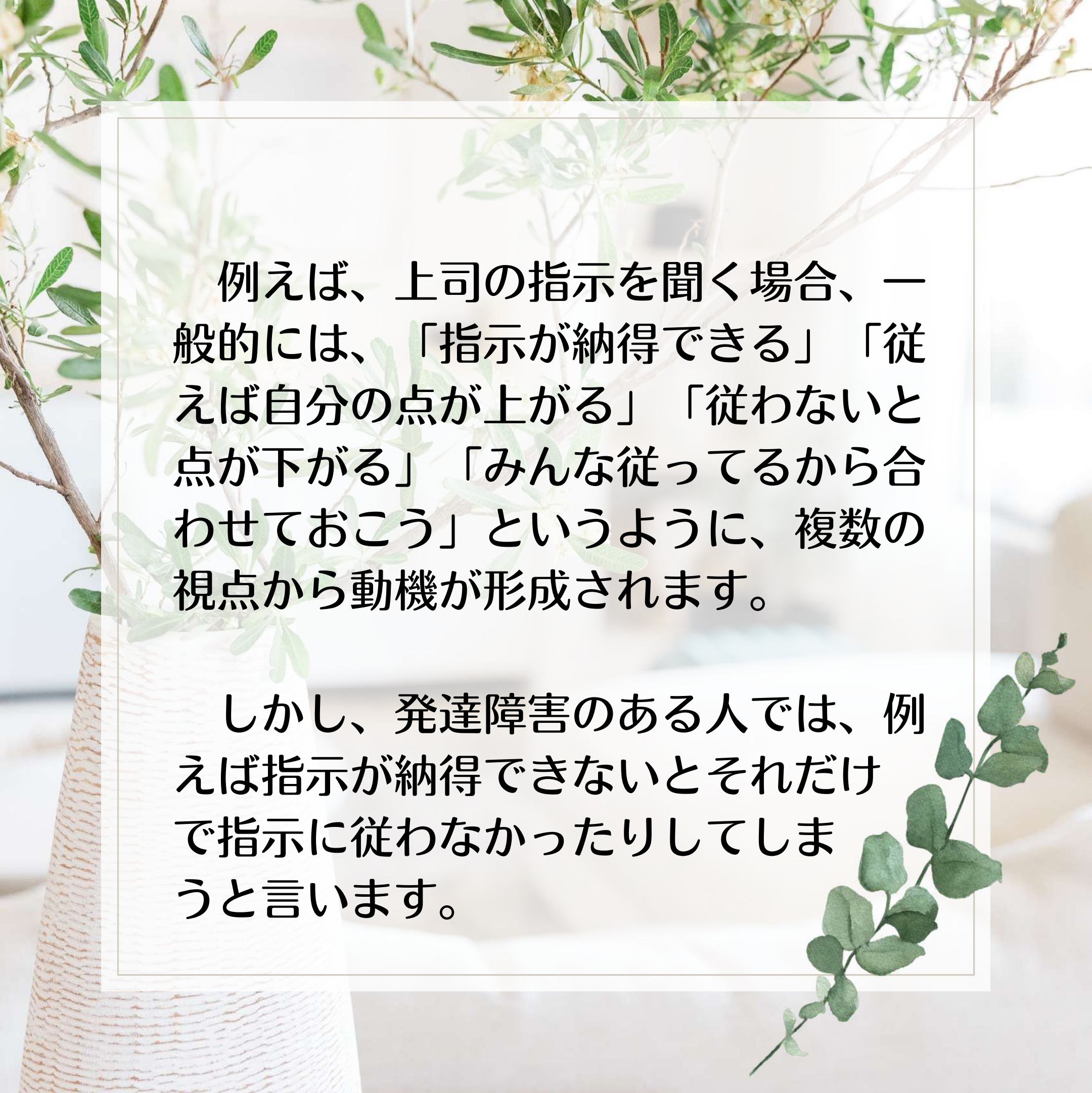
近年、発達障害のある成人に対する就労支援のニーズが高まっています。この論文では、発達障害のある方々の「動機」に焦点を当てて、様々な考察を行っています。

先日のmentalfit新大阪のプログラム「ヘルスマネジメント」で利用者様に説明したものです。



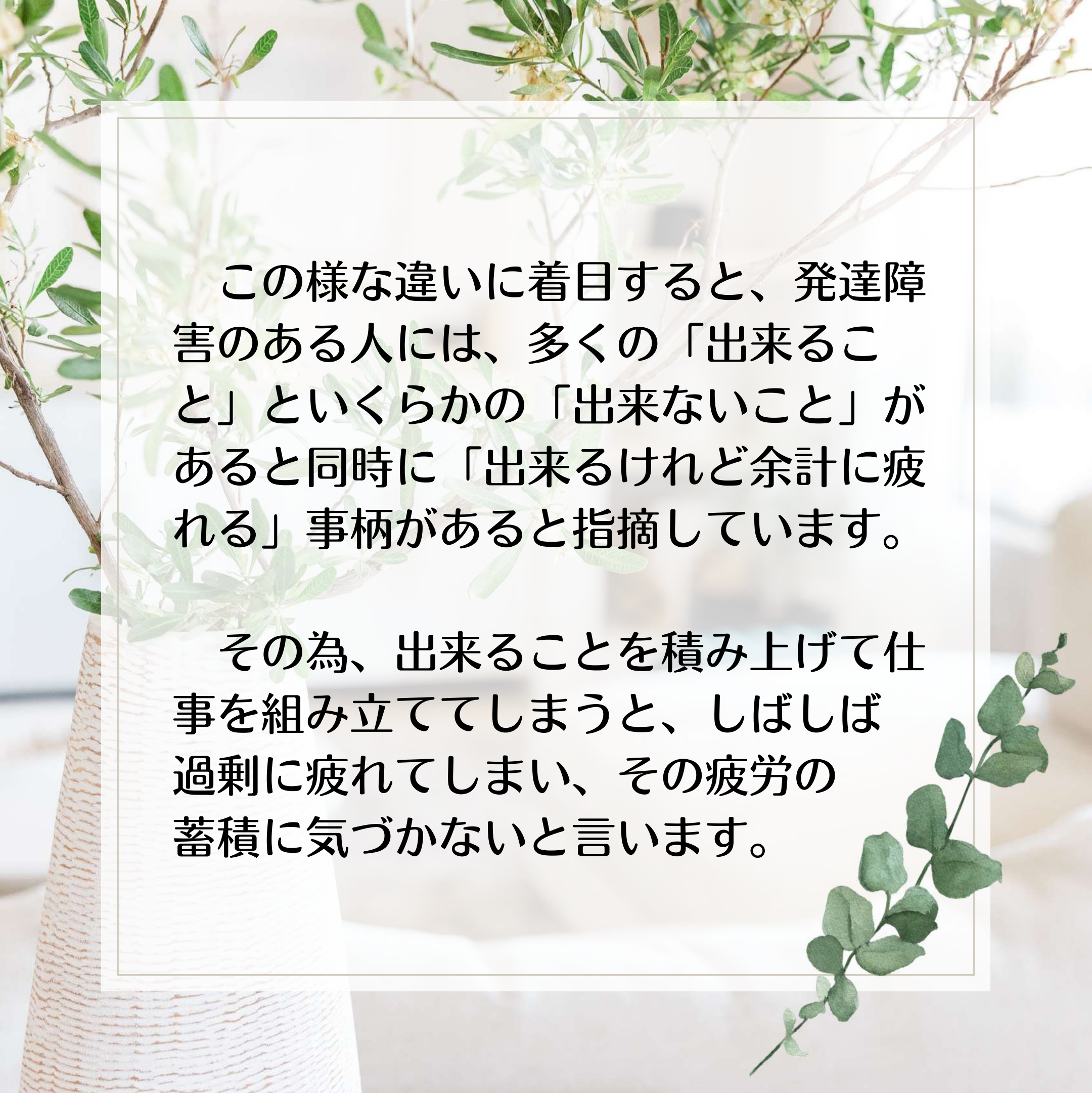
吉川(2019)は、自閉スペクトラム症 (ASD)者では仕事に対する動機付け、注意欠如・多動症(ADHD)者では時間差のある報酬を待てる様な動機付けに対する支援が必要だと言っています。

発達障害のある人が「やる気」になるポイントは、多数派の人達とは少し異なるということです。



例えば、上司の指示を聞く場合、一般的には、「指示が納得できる」「従えば自分の点が上がる」「従わないと点が下がる」「みんな従ってるから合わせておこう」というように、複数の視点から動機が形成されます。

しかし、発達障害のある人では、例えば指示が納得できないとそれだけで指示に従わなかったりしてしまうと言います。



この様な違いに着目すると、発達障害のある人には、多くの「出来ること」といくらかの「出来ないこと」があると同時に「出来るけれど余計に疲れる」事柄があると指摘しています。

その為、出来ることを積み上げて仕事を組み立ててしまうと、しばしば過剰に疲れてしまい、その疲労の蓄積に気づかないと言います。

研究のまとめ

「上司の指示に従う」という様な、
一見単純な課題でも、
発達障害のある人の場合、
多数派の人がもつ「動機が多様性」
がないことから、
特別な支援（あるいは注意）が必要で
ある可能性を、当事者や周囲が理解し
ておくことが有用。

雑感

「動機」に着目した考え方は、盲点であったと思います。特に、「出来るけれど余計に疲れる」ことがあるとの指摘は、とても重要である様に感じました。

周囲と同じことをしているのだから自分だけがしんどい訳ではないと、自分を追い込んでしまう事がないと良いと感じました。

最後までご覧いただきありがとうございます

mentalfitは、復職・再就職を
支援するリワーク施設です。
再発予防に力を入れたプログラムを
おこなっており、
みなさまの「働き方」、「生き方」を
サポートしています。

mentalfit

岸和田
あまがさき
新大阪

タップして他の投稿
も見てみる



mentalfit.
Re;work & life Support Center

